

プロジェクトメンバー業績一覧

平成24年度心理科学研究センター員の業績一覧

長田洋和 専修大学人間科学部教授・研究代表者

長田洋和 (印刷中). ロヴァス法 (Lovaas Method), 応用行動分析療法 (Therapy with Applied Behavioral Analysis; ABA), アンガーマネージメント (Anger Management).

原仁・上野一彦・笹森洋樹・高橋あつ子編 家庭で学校で使える発達障害辞典 合同出版
Osada, H., de Amorim, A. C., Velosa, A., Wan, W. P., Lotrakul, P., & Hara, H. (2012). Depression risks in mothers of children with developmental disabilities: a cross-cultural comparison of Brazil, Colombia, Malaysia, and Thailand. *International Journal of Social Psychiatry*, Published online: March 8, 2012.

長田洋和 (2012). 発達障害のスクリーニング 子育て支援と心理臨床, 5, 121-125.

Osada, H., Tachimori, H., Koyama, T., & Kurita, H. (2012). Longitudinal developmental courses in Japanese children with autism spectrum disorder. *Child Psychiatry and Human Development*, 43, 895-908.

長田洋和 (2012). 少年非行と発達障害 日本心理学会第76回大会シンポジウム, 専修大学

大久保街亜 専修大学人間科学部准教授・事務局長

Okubo, M., Kobayashi, A., & Ishikawa, K. (2012). A fake smile thwarts cheater detection. *Journal of Nonverbal Behavior*, 36, 217-22.

石川健太・岡村陽子・大久保街亜 (2012). 社会不安傾向者の視線方向判断:表情と解釈バイアス 心理学研究, 83, 225-231.

大久保街亜 (2012). ジェスチャーから言葉が生まれた:言語のジェスチャー起源説 日本語学, 33, 16-26.

小林晃洋・大久保街亜 (2012). 日本人参加者における作業記憶測定 専修人間科学論集:心理学篇, 2, 27-34.

小林晃洋・大久保街亜 (2012). Ubuntu, Octave, Psychtoolboxによるフリーウェア実験環境構築 専修大学社会知性開発研究センター・心理科学研究センター年報, 1, 89-108.

Okubo, M. (2012). Leftward attentional biases in Framed-line Test among East Asians. The International Neuropsychological Society mid-year meeting in Norway 2012, Oslo, Norway.

石川健太・大久保街亜 (2012). 社会不安傾向者の表情認知における左右大脳半球機能 日本心理学会第76回大会, 専修大学

小林晃洋・大久保街亜 (2012). 認知負荷量の測定とモダリティ効果 日本心理学会第76回大会, 専修大学

鈴木玄・大久保街亜 (2012). 注意の瞬きにおける知覚的負荷の効果 日本心理学会第76回大会, 専修大学

大久保街亜・小林晃洋・石川健太 (2012). 裏切りもの検知に表情表出の左右非対称性が果たす役割 日本基礎心理学会第31回大会, 九州大学

澤幸祐 専修大学人間科学部准教授・研究推進責任者

栗原彬・澤幸祐 (2012). 道具的条件づけにおける条件性制止訓練と興奮子消去の効果 基礎心理学研究, 31, 35-41

澤幸祐 (2012). 古典的条件づけ 心理学研究法 誠信書房

澤幸祐・栗原彬・永石高敏・沼田恵太郎 (2012). 学習と認知: 随伴性判断を中心に 心理学研究法 誠信書房

Sawa, K. and Ishii, K. (2012). Conditioned flavor preference and the US postexposure effect in the house musk shrew (*Suncus murinus*). *Frontiers in Psychology*, 3:242. doi: 10.3389/fpsyg.2012.00242

Fujiwara, H., Sawa, K., Takahashi, M., Lauwereyns, J., Tsukada, M., & Aihara, T. (2012). Context and the renewal of conditioned taste aversion: The role of rat dorsal hippocampus examined by electrolytic lesion. *Cognitive Neurodynamics*, 6, 399-407.

澤幸祐 (2012). 連合学習理論は擬鼠主義の産物かー表現論としての連合理論ー 動物心理学研究, 62, 59-67.

Leising, K. J., Sawa, K. & Blaisdell, A. P. (2012). Factors that influence negative summation in a spatial-search task with pigeons. *Behavioral Processes*, 90, 357-363.

宮下遙・栗原彬・澤幸祐 (2012). ラットの強制水泳手続きにおける恐怖反応の再発に及ぼす影響 日本動物心理学会第72回大会, 関西学院大学

乾吉佑 専修大学人間科学部教授

乾吉佑 (2011). 心理臨床の基礎としての精神分析 臨床心理学, 11巻6号, 787-792. 金剛出版

乾吉佑 (2012). 心の全体像を見渡すことのむずかしさ 精神分析研究, 56巻1号, 79-81.

乾吉佑 (2012). 資料「精神分析と箱庭」箱庭療法研究, 25巻1号, 111-136.

下斗米淳 専修大学人間科学部教授

MacDonald, G., Marshall, T. C., Gere, J., Shimotomai, A., & July, L. (2012). Valuing romantic relationships: The role of family approval across cultures. *Cross Cultural Research*, 46, 366-393.

下斗米淳・小澤拓大 (2012). 対人関係における交換原理の指標化の探索的検討: 指標の比較分析を通して 日本心理学会第76回大会発表論文集, p.70.

小澤拓大・下斗米淳 (2012). 自己犠牲の適応の検討 (1): 動機・内容・相互依存の観点から 日本社会心理学会第53回大会発表論文集, p.148.

下斗米淳 (2012). Geoff MacDonald招待講演企画「Social Pain and Social Reward」日本心理

学会第76回大会, 専修大学

下斗米淳 (2012). シンポジウム企画・指定討論「健康行動促進をめざしたリスク認知とヘルスコミュニケーション」 日本心理学会第76回大会, 専修大学

下斗米淳 (2012). ワークショップ指定討論「現代青年の成熟とは何か」 日本心理学会第76回大会, 専修大学

下斗米淳 (2012). シンポジウム指定討論「自己制御規範の心理学：3次元自己制御モデルの観点からの議論」 日本パーソナリティ心理学会第21回大会, 島根県民会館

藤岡新治 専修大学人間科学部教授

藤岡新治 (2012). 論文コメント 村田航「短期で面接が中断した中学生3年生男子ケース」へのコメント 専修大学心理教育相談室年報, 第18巻, P127.

藤岡新治 (2012). 学会シンポジウム企画・司会「日本のEAPの現状と今後の課題」 日本心理学会第76回大会, 専修大学

藤岡新治 (2012). 座長 小川真紀・荒川和歌子「単回性PTSDと複雑性PTSDのロールシャッハ・テスト反応」 日本ロールシャッハ学会第16回大会, 明治大学

村松励 専修大学人間科学部教授

村松励 (2012). 非行・犯罪・裁判 新曜社 (共著)

村松励 (2012). シンポジウム企画・司会・指定討論「少年非行と発達障害」 日本心理学会第76回大会, 専修大学

村松励 (2012). シンポジウム指定討論「非行化した少年の育ち直しをどのように支えるのか—児童自立支援施設における支援の実際—」 日本カウンセリング学会第45回大会, 麗澤大学

村松励 (2012). 書評：非行・犯罪少年のアセスメント—問題点と方法論— 臨床心理学, 12(4), 615-616. 金剛出版

山上精次 専修大学人間科学部教授

栗原彬・山上精次・澤幸祐 (2011). 反応時間課題における主観的予測と行動の乖離：延滞条件づけと痕跡条件づけを用いた検討 日本基礎心理学会第30回大会, 慶應義塾大学

榎本玲子・山上精次 (2011). 身体近傍空間知覚における道具仕様の影響に関する検討 日本基礎心理学会第30回大会, 慶應義塾大学

山上精次 (2012). 心理学研究室の近現代史と2012年日本心理学会大会 Annals of Yamagami Laboratory, Vol.2, No.1, p.1 - 2.

山上精次・高砂美樹・サトウタツヤ・鷺見成正・溝口元 (2012). 1912年とこの100年の心理学の展開 日本心理学会第76回大会シンポジウム, 専修大学

榎本玲子・山上精次 (2012). 身体性を有した道具の使用による身体表象の変容に関する研

- 究 日本心理学会第76回大会発表論文集, p.530.
- 山下花緒・榎本玲子・山上精次 (2012). 両耳分離聴による色聴共感覚の検討 日本心理学会第76回大会発表論文集, p.618.
- 榎本玲子・山上精次 (2012). 道具使用による身体近傍空間の拡張の様相に関する研究 日本基礎心理学会第31回大会, 九州大学

石金浩史 専修大学人間科学部准教授

- 石金浩史・榎本ゆかり (2011). 小型脊椎動物の視運動反応を用いた運動残効の神経基盤に関する研究 日本基礎心理学会第30回大会, 慶應義塾大学
- 石金浩史 (2012). ニューロンによる情報表現の実証的研究について 専修人間科学論集: 心理学篇, 2, 21-25.
- 原澤賢充・南部政智・北崎充晃・石金浩史 (2012). 差動皮質応答による空間的注意位置関連領域の同定: fNIRSによる研究 第20回VR心理学研究会, 室蘭工業大学
- Harasawa, M., Nambu, M., Kitazaki, M., & Ishikane, H. (2012). Differential phase-encoded method revealed location of spatial attention-related activities in parietal, temporal and occipital cortex: an fNIRS study. ECVP2012, Alghero, Italy.
- Nagahata, M., Okamura, Y., & Ishikane, H. (2012). Attentional bias for body and food in healthy females. The 35th Annual Meeting of Japan Neuroscience Society, Nagoya Congress Center
- 長畑萌・石金浩史 (2012). 健常女性における身体・食物に関する認知の研究 日本心理学会第76回大会, 専修大学

岡田謙介 専修大学人間科学部准教授

- Okada, K. (2012). A Bayesian approach to asymmetric multidimensional scaling. *Behaviormetrika*, 39, 1-14.
- 大久保街亜・岡田謙介 (2012). 伝えるための心理統計: 効果量・信頼区間・検定力 勁草書房
- 千野直仁・佐部利真吾・岡田謙介 (2012). 非対称MDSの理論と応用 現代数学社
- Singer, J. D. & Willett, J. B. 菅原ますみ (監訳) 松本聡子・松浦素子・尾崎幸謙・室橋弘人・高橋雄介・岡田謙介・山形伸二 (訳) (2012). 縦断データの分析 1 —変化についてのマルチレベルモデリング— 朝倉書店
- 岡田謙介 (2012). 因子数が明らかでない場合の信頼性のベイズ推定 独立行政法人大学入試センター入学者選抜研究機構報告書, 7, 71-79.
- Okada, K. (2011). Bayesian inequality constrained multidimensional scaling. The 4th International Conference of the ERCIM Working Group on Computing & Statistics, London, UK.
- Okada, K. (2012). Bayesian analysis of asymmetry by the slide-vector model. 4th Japanese-

German Symposium on Classification, Doshisha University

- 岡田謙介 (2012). 直積空間法によるベイズファクターを用いた多次元尺度モデルの選択 日本計算機統計学会第26回大会, 香川県社会福祉総合センター
- Okada, K. (2012). Bayesian model averaging in factor analysis to estimate factor reliability. International Society for Bayesian Analysis 2012 World Meeting, Kyoto Terrsa
- Okada, K. & Mayekawa, S. (2012). Dealing with Rotational indeterminacy in Multivariate Bayesian Models. The 2nd Institute of Mathematical Statistics Asia Pacific Rim Meeting, Tsukuba International Conference Center
- 岡田謙介・前川眞一 (2012). 多群探索的構造方程式モデリングにおける一般化拡大プロクラステスト回転 統計サマーセミナー 2012, 伊豆山研修センター
- Okada, K. (2012). A Bayesian Asymmetric MDS for the Radius-Distance Model. Joint meeting of Japanese and Italian Classification Societies 2012, Anacapri, Italy.
- 岡田謙介 (2012). 非対称半径距離モデルのベイズ推定とモデル選択 日本計算機統計学会第26回シンポジウム, 東京大学
- 岡田謙介 (2012). 心理学研究における効果量の活用と報告—APAの指針をふまえて— 日本教育心理学会第54回総会チュートリアルセミナー, 琉球大学

岡村陽子 専修大学人間科学部准教授

- Sohlberg, M. M. & Mateer, C. A. 尾崎誠・上田幸彦 (監訳), 岡村陽子 (第3章・第9章翻訳) (2012). 第3章神経学的・神経行動学的回復に関係する要因, 第9章アウェアネスの障害の評価と管理 高次脳機能障害のための認知リハビリテーション～統合的な神経心理学的アプローチ～, 47-72 (第3章), 227-258 (第9章) 協同医書出版
- 岡村陽子 (2012). 海外文献紹介「Neuropsychological Rehabilitation: Theory, Models, Therapy and Outcome」臨床心理学, 12 (2), 291-293. 金剛出版
- 岡村陽子 (2012). セルフアウェアネスと心理的ストレス 高次脳機能研究, 32 (3), 438-445. 高次脳機能障害学会
- 荏原実千代・太田令子・岡村陽子・中島八十一・吉永勝訓 (2012). 小児期発症の高次脳機能障害の支援実態調査報告1-障害像 第49回日本リハビリテーション医学会学術集会, 福岡国際会議場・福岡サンパレス
- 石川健太・岡村陽子・大久保街亜 (2012). 社会不安傾向者の視線方向判断: 表情と解釈バイアス 心理学研究, 83, 225-231.

高田夏子 専修大学人間科学部准教授

- 高田夏子 (2012). Goyaの黒い絵と臨床における絵画・夢・イメージ 専修大学人間科学論集: 心理学篇, 2, 43-59.
- 高田夏子 (2012). 箱庭とことば 箱庭療法学研究, 第25巻1号 巻頭言

長谷川寿一 東京大学総合文化研究科教授

- Senju, A., Vermetti, A., Kikuchi, Y., Akechi, H., Hasegawa, T., and Johnson, M. H. (2012). Cultural background modulates how we look at other persons' gaze. *International Journal of Behavioral Development*. DOI: 10.1177/0165025412465360
- Akechi, H., Kikuchi, Y., Tojo, Y., Osanai, H., Hasegawa, T. (2012). Pointing Cues Facilitate Word Learning in Children with Autism Spectrum Disorder. *Journal of Autism and Developmental Disorders*, **5**, 1230-1242.
- Ikeda, K., Sugihara, A., Hasegawa, T. (2012). Fearful faces grab attention in the absence of late affective cortical responses, *Psychophysiology*, **50**, 60-69.
- Nozaki, M., Fujisawa, K. K., Ando, J., & Hasegawa, T. (2012) The Effects of Sibling Relationships on Social Adjustment among Japanese Twins Compared with Singletons, *Twin Research and Human Genetics*, **15**, 727-736.
- Irie, N. & Hasegawa, T. (2012). Summation by Asian Elephants *Elephas maximus*. *Behavioral Sciences*, **2**, 50-56
- 中村敏健・平石界・小田亮・齋藤慈子・坂口菊恵・五百部裕・清成透子・武田美亜・長谷川寿一 (2011). マキャベリアニズム尺度日本語版の作成とその信頼性・妥当性の検討 パーソナリティ研究, 第20巻, 第3号, 233-235.
- 長谷川寿一・長谷川眞理子 (2012). 進化と発達 高橋恵子・湯川良三・安藤寿康・秋山弘子 (編) 発達科学入門1 理論と方法 東京大学出版会